



ドローンで空撮した秋田高等学校全景

秋田県立秋田高等学校

ヒトの健康に作用する化学物質に関する研究

積み上げられてきた高度な研究

全国屈指のコンクール常連校

秋田高等学校の生物部は、全国高等学校総合文化祭で最優秀賞（全国1位）を獲得するなど科学コンクールの常連校。研究内容は、緑茶成分による抗生物質の抗菌効果の変化や、その化学構造の解明を通じて薬剤耐性菌問題の解決をめざすなど、極めて高度だ。

研究に必要な有機化学などの知識は先生に聞くほか、ネットや学会誌から情報を得ることもあるが、「先輩方の先行研究を熟読」（1年・藤井由紀子さん）することが多い。そこで役立つのが、部に受け継がれてきた研究ノートだ。秋田県の博士号教員採用の第一期でもある顧問の遠藤金吾教諭は「正式なルールに則り、消せないようにボールペンで書かせる。これで誰もが研究の道筋を遡れる研究ノートになります」と秘訣を語る。



生物部メンバーと遠藤金吾教諭（前列左）



取材中「日本学生科学賞」の県知事賞（県1位・中央予備審査進出）受賞の朗報に歓喜



●実施担当

遠藤金吾 教諭

●活動のモットー

科学に携わる者として、どんな道に進んでも恥ずかしくないマナーを身につけて送り出すことを心がけている。



実験風景



研究結果は皆で話し合って考察

将来を見据えながらも今が楽しい

こうして積み上げられた研究はどんどん深化。遠藤教諭も「こんなことまで調べてきたの？」と驚かされることがあるという。将来は研究職を志す小野心美さん（2年）や武田彩音さん（1年）が「活動を通して研究の進め方を具体的に知る機会を得て、将来像がより明確になりました」と話すように、目的意識もしっかりしている。

一方で、佐々木潤大さん（1年）は「ああでもないこうでもない」と研究結果を考察したり、次の研究対象を探したりすることが楽しい」と言う。部長の佐藤真美さん（2年）も「根拠に基づいて自分たちの研究を見つめ直すのがとても楽しいです」と話してくれた。

遠藤教諭が「帰宅後も、部員たちはチャットで夜遅くまで話し合っています。私も参加しますが、私のほうが先に音を立てて寝てしまうほどです」と笑うように、部員たちからは、今が楽しくてしかたないという様子も伝わってきた。

（個別助成）



受け継がれる先輩の研究ノート

学校概要



「品性の陶冶」「学力の充実」「心身の錬磨」を教育目標に、「文武両道」「自主自律」の精神を受け継ぐ2023年に創立150年となる伝統校。

設立：1873年
生徒数：819人
所在地：秋田市手形字中台1

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

中谷財団

検索

